

# 高崎山 写真 ヒストリー

自然動物園70年

大分市の高崎山自然動物園が今年3月15日、開園70周年を迎えた。野生ニホンザルの餌付けで知られる大分を代表する観光名所で大勢の人に親しまれてきた。園を運営する大分市観光課・高崎山管理センターが保管する「園の過去の写真」などを取り上げて、今なお存在感を示す園の歴史を紹介していく。

(原則、第2、第4日曜日に掲載します)

【修学旅行】の写真(上、センター提供)は1960年の撮影。園前の国道10号にバスがずらりと並び、修学旅行で訪れた中学生とみられる制服姿の生徒たちがあふれている。「この写真を見ると、他の車の通行は大丈夫だったのかなどと思ってしまいます」とセンター職員菅本夕子さん

## サルの餌売る店 今はなく



(50)。来園者は53年の開園以来、年々増加。60年度は延べ112万7875人と初めて100万人を突破した。ただ、修学旅行での来園はかつては多かったが、最近は少なくな

つている。

【売店】の写真(下、同)は62年10月の撮影。「サル寄せ場」に売店があり、落花生など、サルの餌を来園者に販売していた。来園者の餌の持



ち込みは御法度。売店で買うことでサルに与えることができた。ただ、サルが来園者が持つ餌を狙って襲いかかり、けがをさせることもあった。写真はサルたちが来園者に餌を求めて群がっている様子もうかがえ「ちょっと怖くなりまし」とセンター職員の本木智さん(55)。売店は93年5月に閉鎖され、以来、来園者の餌やりは禁止となっている。